

新たな高知県史【民俗編】の編集について

R6. 5. 20 高知県史編さん民俗部会
高知県史編さん事務局

第1 課題と目指す方向性（編集の前提）

1 前回県史の項目と課題

○ 前回の県史の民俗編は、オーソドックスな民俗分類に沿って高知県の民俗を記述するほか、資料編にて民俗に関連する歴史資料の翻刻を掲載した。

『高知県史 民俗編』における項目一覧

【第一章 社会生活】

- ムラの生活
- 講集団
- 若者組
- 家族生活

【第二章 衣食住】

- 衣生活
- 食生活
- 住居生活

【第三章 林業】

- 用材生産
- 製炭

【第四章 漁業】

- 漁業形態と漁法
- 造舟とその儀礼
- 信仰と俗信
- 河川漁業

【第五章 狩猟】

- 狩猟の変遷
- 狩猟と信仰
- 収穫儀礼と信仰
- 猟法、解体、配分、その他

【第六章 神社祭礼】

- 神饌
- 頭屋とまつり
- 祭礼に於ける憑坐

【第七章 民俗芸能】

- 神楽
- 花取踊り(太刀踊り)
- しし舞
- 太鼓踊り
- こおどり
- 盆の芸能
- 伊勢踊り
- 棒打ち・棒術

○ 課題

(1) 扱っていない民俗の分野が多くあった

当初、前県史民俗編本編は桂井和雄氏が執筆する計画となっていたが、病氣療養のために編集作業を継続することができず、坂本正夫氏と高木啓夫氏が引き継ぎ、昭和49年4月から昭和51年12月までの3年間で調査執筆を行うこととなった。前県史民俗編は現在の民俗研究の上でも重要な先行事例を示す記述を

多く行っているが、一方、調査・編集作業に十分な時間をとることができず、基本的な項目を一部扱えていない。

※前県史で扱っていない項目例

(文化庁文化財保護部『日本民俗資料事典』より、民俗の11分類参考)

【生産・生業】

↳ 農耕、畜産、手工等

【交通・運輸・通信】

↳ 陸路と水路、
旅行と宿泊等

【交易】

↳ 行商・市・店売り、
交易施設等

【信仰】

↳ 霊魂感、巡礼、俗信、
妖怪、幽霊等

【民俗知識】

↳ 教育、医療、暦法等

【人生儀礼】

↳ 産育、成人、婚姻、
年祝い、葬送等

【年中行事】

↳ 正月、田の神まつり、
五月節分、七夕、盆、大歳等

【口頭伝承】

↳ 伝説、昔話、世間話、地名、民謡等

(2) オーソドックスな民俗分類に対する再検討の必要性

前県史の刊行からおおよそ50年が経過し、県内の民俗を取り巻く環境は大きく変化している。各地でかつて伝承されていた年中行事や祭礼、民話など、既に多くの文化が失われている一方で、新たに生まれた民俗事象も多くある。

そうした現在の高知県の民俗を捉えるために、前県史で用いたような民俗分類をもとにした項目立てを再検討する必要がある。

2 新たな県史で目指す方向性

(1) 高知県の風土から民俗を捉える構成

高知県の民俗の特色をより深く捉えるために、本編は県内の海岸部、平野部、山間部などといった地理的特性ごとの文化、言い換えれば「風土」に着目した構成とする。

(2) 実地調査に基づく記述

上記の構成に従い、県内で設定した調査値にて実地調査を行う。聞き書き調査や資料調査にて収集した最新の資料を用いて、現代の高知県の民俗を記述することを目指す。

3 新たな県史の目指す姿と進捗管理

- 民俗学における基本的な項目にとどまらず、高知県独特の地域性を踏まえた構成から記述を行うことで、県民の歴史文化への理解と郷土への愛着を深めることにつながる「高知県の民俗誌」の提示を目指す。

- 刊行までのスケジュールは、最初の刊行となる資料編1「ことばと伝承(仮)」に向けて実地調査や文献資料の収集を進め、3年間の編集期間を経て令和9年度の発刊を目指す。一方で幅広い専門領域を扱う本編についても刊行計画に基づいた編集・発刊を行えるよう、並行して調査を進めていく。
- スケジュールは、専門部会での作業確認や編集委員会への報告、事務局による作業の個別管理などにより、進捗に遅れが生じないよう適切に管理していく。

第2 編集の基本的な方針

- (1) 基本的な民俗分類を網羅的に扱うことを目指すとともに、そこにとどまらず、県内の地域的な民俗の特色を理解してもらえるような構成を目指す。
- (2) 民俗編では新たな調査から資料を収集するのみでなく、高知県の民俗についてのこれまでの先行研究を整理し、それを適切に引き継いで編集を行う。
- (3) 民俗資料調査や編集の過程では、できるだけ多くの県民や団体に参画してもらい、今後の本県の歴史調査・研究を担える人材の育成を重視した編さんを行う。